

「Yちゃん、一緒にやろうよ」

— 障害のあるY子と共に —

○自己表現の力の育成

○共生意識の育成

幼稚園

1 題材設定の趣旨

障害のあるY子が、体を使った共同活動を通し、自分の思いを素直に表現できる力を培うとともに、周囲の子どもたちが、Y子に関わる中で、共に生活していこうとする気持ちを育てる。

2 Y子の様子

生まれつき障害のあるY子は、医療機関で機能訓練や言語訓練を受けている。集団活動が苦手で、自分の思いをそのまま出してしまったり、気分がのらないと泣き出したりすることもある。反面、いろいろなことに興味を示し、活動的であり、心を許せる人とならば自分を出すことができる。

3 ねらい

- Y子が、幼児達との仲間意識を高めながら自分の思いを表現できる力を培っていく。
- 幼児同士が、仲間と楽しく関わり合うことを通して、お互いのよさを認めたり、相手のありのままの姿を受け入れると共に、思いやりの心を育てていく。

4 保育の流れとY子の変容

月	保育 属	保育指導内容・子どもの変容		評 価
		Y子の様子	学級の子どもたち	
4 月	年中に 進級	年少時落ち着き出していたが、担任が替わると学級に入室できず職員室へ。担任や学級を嫌がり大声を出す。	「Yちゃん赤ちゃんみたいだから騒いじゃうんだ。」「小さいからオムツなんだよ。」と子どもたち。	
5 月	Y子の 専任	<p>複数担任制や交代制をやめ、Y子の専任制を作る</p> <p>○担任と心が通じ合い、働きかけに応じる姿が見られる。</p> <p>○担任に甘えたり、担任と一緒に安心して学級に入る。</p>	○落ち着きを見せだして、活動に集中し始める。	◇担任がY子の思いに心を寄せられたか
6 月	Y子に 対する 理解	<p>学級の子にY子のことについての話をする</p> <ul style="list-style-type: none"> • Y子が生まれてすぐ病気になったこと • そのためオムツが外せないこと • Y子なりに取り組んでいること <p>○「Yちゃん」と呼ばれると「ハイ」と返事を返す。○お尻を振りながら「プリプリプリ」と言ってふざけてみせる。</p>	<p>お互いを認め合う 自尊心</p> <p>○「赤ちゃん」と言う子に対して「違うよ。Yちゃん病気したからだよ。赤ちゃんじゃないよ。」</p> <p>○園児服の着脱や出席ノートにシー</p>	◇学級の仲間がY子のことを理解しようとしているか

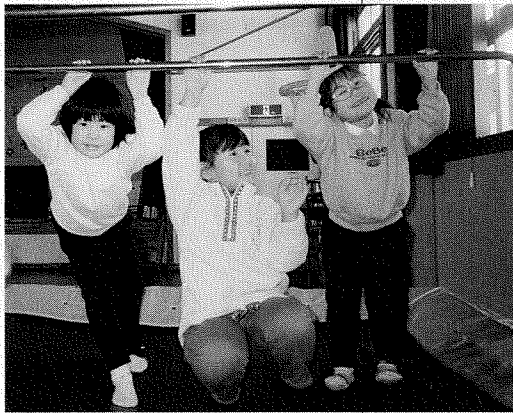


シールを貼る子ども。

○一緒に遊ぶ子

●Y子ができるとのことまでやってしまったり、きつい言葉で注意したりする子

6月	自立の場の設定	<p>Y子に任せてみる場の設定を行う</p> <p>○自分で全部牛乳を飲む</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自 立</div>	<p>○K男「Yちゃん一人で全部飲んだ！」そして微笑みながらY子に向かって「一人で全部飲んだね」と問いかける。</p>	◇できることの実態把握
7月	幼児達との関わりの場の設定	<p>集団生活の中での約束をしたり、遊びのルールを指導した後で2人の場を設定する中で</p> <p>○ジャンピングの楽しみが分かり、昼食後必ずジャンピングをやりにいきたがる。</p>	<p>○違う友だちが毎日一人ずつ一緒に行き、10分ほど共に遊ぶようになる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">仲間意識の芽生え</div>	◇ルールが分かり、楽しさを感じられたか
	H男関わりの場の設定	<p>お互いに関わりが持てるように道具を用意する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">実践事例 I</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto;">自分からは関わりが持てにくかったY子が、水遊びの中でH男と関わりをもっていく姿と共に、Y子と同じ目線に立つH男が相手意識を高めていく。</div>		◇道具を介して関わりが持てたか
8月	排泄指導	<p>Y子の排泄指導場面での子どもたちとの接点を求めて</p> <p>○Y子のトイレトレーニングの開始。活動の前後は出る出ないに関わらず幼児と一緒にトイレに連れていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">相手の立場への配慮 思 い や り</div>	<p>○Y子との関わりを持とうとしたT子の姿。「Yちゃんおしっこできるの?」「でた?」のぞき込む。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「Y子ちゃんもトイレに行くようになったね。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「Yちゃんも一緒に行こう。」手をつないでトイレに行く。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「おしっこ見られるの恥ずかしいでしょ。」見守れるようになった。</p>	◇興味本位の関わりから、相手の立場を考慮されるようになったか

<p>9月</p> <p>自立への援助</p>	<p>Y子をクラスの子どもたちに任せる</p> <p>○音楽好きなY子。友だちと目を合わせ笑顔が多くなる。しかし、友だちだけの中に入ると、「先生は？先生は？」「あっち行って」「いいの！」と言って友だちを寄せ付けない。</p> <p>↓</p> <p>○A子とR子と手をつなぐ。保育者が「Yちゃん、お友だちと一緒にだね。お部屋まで行ってらっしゃい」と言うと「先生、行ってきまーす」とにっこり笑い、歩いていく。</p>	<p>Y子の自立</p> <p>○A子とR子の姿 Y子の所へきて腰を少し曲げ、顔を近づけ、「Yちゃん行こう」の声がけ。</p>	<p>◇Y子が仲間意識を持てるようになったか</p> <p>◇Y子を取り囲む子どもたちがY子と共に活動できるか</p>
<p>10月</p> <p>運動会</p>	<p>Y子をクラスの子どもたちに任せる</p> <p>○大勢の観客に戸惑う。表情も固く園庭にも出ない。</p> <p>↓</p> <p>○D男とN子。「ここだよ」の声がけ。突然抱かれていた保育者の腕から自分で降り、D男とN子の手をつなぐ。</p>	<p>○Y子と手をつないだD男とN子 Y子の歩調に合わせて、園庭の中程まで歩いていく。</p>	<p>◇声かけの大切さ</p> <p>◇相手への状況判断</p>
<p>理解の深まり</p>	<p>Y子に対する周囲の子どもたちの声をきちんと聞く</p> <p>○毎日届くY子に対する子どもたちの声 「Yちゃん、ジャンピング強くやると恐いって」 「ボール投げるより、転がす方が好きみたい。」 「ジャンピングから一人で降りられるようになったよ。Yちゃんの足のところ持ってあげたらできた。」</p>		<p>◇Y子への関心の高まり</p>
<p>11月</p> <p>仲間意識の高まり</p>	<p>Y子の好きな絵を描く活動を取り入れた場面設定</p> <p>実践事例Ⅱ</p> <p>非攻撃的自己主張 自尊感情・思いやり</p> <p>身近に知っているものを絵にすることによって、仲間との関わりが深まったY子と、Y子と心を通わせるようになっていった仲間たち</p>	<p>◇学級全体の仲間意識や自尊感情の高まり</p>	